

## 話題

## 理念（目標）の働き

坂井哲博

むつ総合病院には基本理念があります。書いてあることはあたりまえで、今更あっても無くても変わりはありません。理念には働きは無く、私たち一人一人と大した関係も無く、私たちの成長（すなわち病院の成長）と密接な関係があるとは即座には考えられません。理念などあるから縛られて成長できないこともあるかもしれません。

理念自体は正しくよいものです。私たちの成長が阻まれるとしたらその原因は理念ではなく私たち自身の内にあるのです。理念と私たちとの正しい関係の認識がなにより重要であり少し深く考えてみましょう。

理念には、三つの働きがあります。第一に罪の自覚を与えます。第二に罪の拠点になります。第三は、完全に守らなければ私たちを死に導きます。ちょっとおおげさでしょうか？

具体的に説明します。とてもまじめな研修医がいました。ある日彼に「患者に寄り添うこと」という理念が伝えられました。彼はこれまで人に褒められ一生懸命努力を積みかさねてきた自負心もあり、自分の罪のことなど考えたこともなく、自分に罪があるなど理解できませんでした。彼にアドバイスがありました。「この理念を徹底的に守ってください。」彼はたやすいことと思いました。ところが人に寛容だと自負していた自分は、迷惑をかけてくる患者には怒りを覚え、憎しみさえ抱くことに愕然とします。自分の親切や善意も自分が良く思われたいという自己中心からでていることを思い知らされます。これが自分の罪の性質だと確信したのです。理念を守り正しく生きようとすればするほど正しくない自分に追い詰められ絶望し死に至ることすらあり得るでしょう。理念が罪を自覚させるわかりやすい例ではないでしょうか。

それでは理念は不要なのでしょうか？いやそうではありません。もしなければ、また「理念は破るためにあるんだ」などと不誠実にごまかしていれば、そして研修医が完全に守ろうと決意してみなければ、患者に寄り添おうが、寄り添わなかろうが、研修医は苦しむこともなく、罪を自覚することすらなかったはずです。理念は理想でありビジョンです。

心に刻まれたビジョンを目指し大胆に、謙虚に生きて成長する私たちを、院内に掲げられている「理念」は冷厳な目で見つめているのです。